



便所はその家の心である 校長講話 2/20

先日、ある学校に行って便所に入った時のことです。次のように書かれた貼紙が目に残りました。「玄関をその家の顔とするならば 便所はその家の心である」というものです。どういうことなんだろうと考えてしまいました。

以前、玄関については「履物を揃える」ということで話をしたので、今日は「便所はその家の心である」について考えたいと思います。

便所は、私たちがどうしてもお世話にならなければいけない場所ですが、皆さんは一日に何回くらいお世話になっていますか。家で3回くらい、学校で3回くらいでしょうか。学校で一人が一日に3回使うと、先生方も含めて全校では1800回くらい使うこととなります。何か所もあると言っても、これだけ使えば汚れます。

では、皆さんはきれいな便所と汚れた便所ではどちらを使いたいですか。もちろんきれいな方ですよね。きれいで清潔な便所が使えると誰でも気持ちがいいものです。だから掃除が大事になります。

では、便所掃除を徹底的にやってピカピカにするとどんないいことがあるのでしょうか。

第1に「気づく心が育つ」ということです。

いつもきれいな便所を使っていると、少しの汚れでも目につき、「気になるな」という気持ちになります。これは他のことについても言えることで、例えば、今日の友達の様子がいつもと違うなというように気づくことにもつながっていきます。「どうしたの」と声をかけられれば友達はうれしくなります。なかよしが一層深まることとなります。気づく心はとても大事な力です。

第2に「謙虚な心が育つ」ということです。

汚れに気づいたら「次に使う人が気持ちよく使えるように、きれいにしなければいけないな」という謙虚な心になれます。謙虚、難しい言葉だけど、他人の気持ちを常に考えることができるということです。素直な心とも言えると思います。そして、自分できれいにしても「自分がやったんだよ」と自慢しない人です。そんな謙虚な人は誰からも好かれる人です。

第3に「感謝の心が育つ」ということです。

きれいな便所であれば「誰がきれいにしてくれているんだろう。ありがたいな」という感謝の気持ちがわいてきます。自分一人ではない、お世話になっているんだという気持ちになります。そして、自分もきれいに使おうとします。感謝の気持ちを持てることもとても大事なことです。



第4に「感動の心が育つ」ということです。

きれいな便所はやはり「きれいだな」と感動します。そして、きれいなまを保つには、掃除中、身を低くして時には膝をついてやらなければきれいになりません。そんな、一生懸命な姿にも感動するのではないのでしょうか。

第5に「美しい心が育つ」ということです。

便所掃除を自分から進んでやりたいという人は少ないかもしれません。心を取り出して磨くことはできませんから、あまりやりたがらない便所を、心のつもりできれいにする、そんな気持ちでいると心まで美しくなります。

このように、便所をきれいに使ったりきれいに掃除したりする人は、気づく心・謙虚な心・感謝の心・感動の心・美しい心を持った人だということになります。汚れていればその逆になります。このことが「便所はその家の心である」ということかなと思いました。

少し前、教頭先生がこんなことを言っていました。

「最終の戸締りに回ると、においがしていたり便器の周りに飛んだり垂れたりした跡がありません。掃除のみなさんが頑張っていて、常に清潔な状態が保たれています。感謝です。このまま、いい状態が続いてほしいです」

だから、皆さんは五つの心を持っていることになります。

昔から「トイレの神様」という言葉があり、便所には神様がいとされています。とても大事なところだと考えられてきたんですね。

3学期も残りわずかになりました。便所をきれいに使う、きれいに保つ、このことをがんばってみましょう。そして、それができた時、一層全校の心が通じ合い「宮小家族 ～自分を好きになる他人を好きになる 宮田を好きになる～」が実現されるはずです。



学年末の低学年・高学年参観日 2/15・22



1年の朗読劇



6年の思い出発表

今年度、最後の参観日。1年間のまとめとして、それぞれの学年で成長した姿が見られました。日々の授業で積み重ねてきた真剣な様子、学習してきたことの発表、身に付けた

技能、工夫した表現、集団での演奏など、学級、学年に応じた様々な形で、表していました。ご来校の皆様、参観ありがとうございました。

新たな形で「さよならコンサート」(合唱団・金管バンド) 2/23

ぽかぽかと春の陽気を感じさせる中、課外活動の1年間を締めくくる「さよならコンサート」が行われました。昨年度までは村民会館ホールで開かれていましたが、新たなコンセプトのもと本校体育館で行われました。

始まりは合唱団。全員で美しいハーモニーを響かせました。続いて4年、5年が学年ごとに発表。同じ合唱団でも、学年の声の質や重なりが違います。学年のカラーが出ていました。

続いて金管バンドの発表。今年度流行した曲や、これまで伝統的にやってきた曲を組み合わせ披露しました。迫力ある音が開場に響きました。

ここで休憩をはさんで、金管バンドの演奏が再びスタート。今度は、学年ごとの演奏です。これまで全員でやってきた曲を5年だけでチャレンジ。そして、6年生は先輩の力を発揮して新しい曲を奏でました。そして最後はゲームの有名な曲を全員で演奏して締めくくりました。

ここで、合唱団にバトンタッチ。紙飛行機を飛ばすパフォーマンスをからめて、ほっこりさせてくれた合唱団男子の演奏、そして今年度1番力を入れて練習を重ねた合唱コンクールの課題曲と自由曲の演奏。柔らかくそして遠くまで響くステキな歌声が会場にあふれました。そして、合唱団の6年生の演奏。3年間積み上げてきた思いを込めて歌いました。最後に、1年間のまとめ

にぴったりの「ステージ」という曲を全員でしっかりと歌い上げました。

アンコールは金管バンドと合唱団がコラボレーションした「世界に一つだけの花」。明るさと温かい雰囲気にも包まれ、素晴らしいフィナーレとなりました。

体育館でのコンサートは演奏者と来場者の距離感が近く、一体感がありました。演奏している子どもたちは、会場のみなさんの反応をいっぱい



受けとめて、いっそうがんばれたようです。また、コンサートを行うにあたって、会場設営や場面の切り替えを子どもたちが中心に行い、運営を含め自分たちで創り上げたコンサートという感じがすごくありました。

合唱団も金管バンドも大きな拍手をたくさん、たくさんいただき、子どもたちは達成感に満ちていました。ご感想を寄せていただければ幸いです。次年度に生かしていきたいと思えます。



今年度最後の全校体育を楽しむ 2/22

校庭が使用できないので、全校が体育館に集まって行われました。児童会のなかよし班ごとに集まって、丸くなり、リズム遊びで体を動かしました。左右それぞれ8拍、4拍、2拍、1拍と手をつないで、段階的にステップを踏んで回り、まとめで、その動きを「春の小川はさらさらゆくよ〜♪」の曲に合わせてやりました。少しずつ、拍の変化でレベルアップしていくので、こどもたちはできることを実感しながら、合わせることができました。また、グループで行うので、一つにまとまって動く面白さも体感できました。最後は、パンチの動きを入れ、動作に変化をつけて楽しみました。親しみの持てる運動で子どもたちは、大喜びでした。「休み時間にやったり、合う曲でやってみたりしてください。」という園原教諭の働きかけに、「やってみたいな」という子どもたちの顔があちらこちらにありました。これで、今年度の全校体育は終わりですが、日常のちょっとしたところで体を動かせることができたらいいなと思います。来年度も素敵な運動を広げていってほしいと思います。



おおよその年度当初行事と今年度と変わる事

＜年度当初の行事予定＞

始業式・入学式	4月 4日 (木)	12:00頃下校
地区児童会	12日 (金)	
全校授業参観・PTA総会	19日 (金)	
家庭訪問	22日 (月) ~ 26日 (金)	
ゴールデンウィーク	27日 (土) ~ 5月6日 (月)	10連休

＜新年度変更すること＞

- ① 2019年度の5月引き渡し訓練は児童が校庭に並ぶまでで、保護者の実際のお迎えはありません。保護者のお迎えは隔年にします。2020年度は実際にお迎えをお願いします。
- ② 夏休みは始まりを数日早くし、最初の4日間保護者懇談会(午前と午後の枠を設定)を行います。
- ③ 12月は希望懇談を行います。
- ④ 夏休みのプール解放は午前中のみで、時間を短くして2つの枠を設定します。

新年度が始まりましたら、年間を通して詳しくお伝えしたいと思います。